



実習の様子。知床財団に勤務する政策科学部の卒業生2名が、知床を案内してくれる



桜井良

立命館大学 / 「野生生物と社会」学会 理事

政策科学部で 野生動物について考える

私が勤務する立命館大学政策科学部は、理系か文系かと問われれば、社会科学アプローチから政策的課題の解決を目指す文系学部と言える。その政策科学部に、野生動物に関心を持っている学生がどのくらいいるかと言えば、あまりいない。高校生が大学を選ぶ時、また大学生が大学院を選ぶ時に、野生動物について研究がしたければ、普通、野生動物について学べそうな環境系の学部や農学部などに進学するだろう。政策科学部で野生動物について学びたいなどと、物好きなことを考える受験生は少ないと思う。卒業生は大半が一般企業に就職したり公務員となったりで、野生動物と直接関係しそうな業界に就職する者はほとんどいない。ではそんな政策科学部で野生動物をテーマに教育研究を行うことにどのような意味があるのか。その答えの一つを、実習として毎年学生を引率している北海道の知床で見つけたような気がする。知床の野生動物管理を担う知床財団には、実は立命館大学政策科学部の卒業生が2名勤務している。「政策科学部で学んだことが、知床で公園管理のあり方を考える時に役に立っていると思う。」「自然系の仕事と思われがちだが、仕事の大半は人を相手にするので、文系で学べてよかった。」そのような卒業生の言葉を聞き、霧が少し晴れた気がした。今後、大学で、学部でどのような教育をしたらよいか。そのヒントは学生や卒業生の声にあるのかもしれない。